

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 がっこうだいすき（1年） （実施時期 4月～6月）

2 単元の目標

友達と一緒に校舎内や校庭を歩いたり，通学路の様子を調べたりして，学校の施設や学校生活を支えている人々，自分たちの安全を守っている人々のことが分かり，楽しく安心して遊びや生活ができるとともに，安全な登下校ができる。

3 単元について

(1) 学習指導要領の内容

本単元は，学習指導要領の内容(1)「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かるとともに，通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち，楽しく安心して生活ができたり，安全な登下校ができる」を主として(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)を加味して設定した。また，(1)(3)(4)に共通する事項として「安全」に関することが挙げられる。

(2) 児童について

(省略)

(3) 教師のねがい

本単元は，学校内やその周辺の施設，学校生活を支えている人とのかかわりを通して，学校及びその周辺には様々な施設があり，学校生活を支える人が存在することに気づき，ルールや約束を守り楽しく安全に学校生活を送ることができるようになることをねらっている。そのため，児童が多くの人と交流し，かかわりを深められるような授業を展開したい。その活動を通して，自分たちがたくさんの人に見守られていることに気づき，学校や地域に安心感を持つとともに，自分を大切にする気持ちを育て，安全な生活への意識を高めたい。

また，小学校へ入学し，大人に保護されていた環境から，一人で登下校するという新しい環境に慣れてきた時期である。日常的な安全教育は入学後から継続的に続けており，本単元でもさらに見守っている人の存在に気づかせながら，約束やルールを守って安全に登下校しようという主体的な思いが持てるように導きたい。その上で，災害時の防災教育の視点も取り入れていきたい。1年生は，地震や台風などの自然災害に一人で遭遇した経験がほとんどない。そこで，危険な状況を考える手がかりとして，防災副読本の絵や写真を活用していこうと考えた。ひらがなをようやく覚えた段階の1年生であるため，見つける，丸で囲むなどして活用させ，危険な状況に気づき，安全な避難について考えるきっかけとしたい。そして，普段から見守ってくれている人が災害時も信頼できる大人であることに気付かせ，日頃から感謝の気持ちを持ってかかわっていきたいという心情につなげたい。

4 単元の指導計画と評価規準

※ 別紙

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

通学路探検の活動を振り返り、自分たちの安全を守ってくれる人々や施設などに気付くとともに、災害時に身を守るために注意しなければならないことや安全に避難する方法について考える。

(2) 指導過程


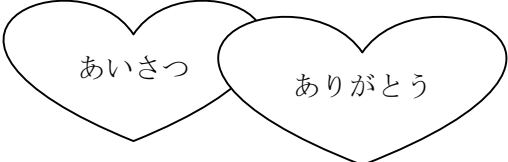

主な学習活動・内容（○主な学習活動・児童の反応）	・留意点 ◎評価
<p>1 前時に通学路を歩いて見つけたものや出会った人を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 通学路探検で何を見つけましたか。どんな人に会いましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな道路があつて、車や自転車がたくさん通っていたよ。 ・信号機や標識があつたよ。 ・大きいビルやマンションもあつた。 ・ベストを着たおじさんとあいさつしたよ。 <p>2 通学路で注意するところについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 歩くときに、気をつけたことはありましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道を渡るときは止まって右と左をたしかめたよ。だって、車が急に飛び出してくるかもしれないから。 ・ちゃんと並んで歩道を歩いたよ。広がると人が通れないから。 ・歩道がないときは、1列になって歩いたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○ 地震が起きたらどんな危険があるか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・塀の近くは歩かない方がいいよ。くずれてくるかもしれないよ。 ・ビルの窓ガラスが割れるかもしれないよ。 ・自動販売機が倒れてくるかもしれないよ。 ・エレベーターに閉じ込められるかもしれないよ。 <p>3 安全に避難するためにはどうしたらよいか、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れてくるものから離れた方がいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からでたものを写真や言葉で掲示する。 ・教師が撮ってきた写真などを用意し、場面を想起しやすいようにする。 ・ものにこだわらず、人にも着目させ振り返らせる。 ・防犯ベストに着目させ、何をしている人なのか考えさせる。 <p>◎安全を守るもの、施設、人々の存在に気付いている。（発表、つぶやき） [気付き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した交通ルール・マナーの話が中心になると思われる。安全を意識して歩行できたことを十分認め、できた自分を実感させる。 ・危ないと判断する場面を取り上げて共有しながら、交通ルールやマナーを守ることに自信を持たせ、日常の主体的な行動へつなげる。 <p>・新防災教育副読本 P26～27 の「①学校のまわり」「②家のまわり」にある絵や写真を利用して考える手がかりとする。危ない場面の絵や写真を○で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性から特に注意を必要とする箇所は、教師から提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所やものから身を守る方法について気付いたことを発表させる。 ・出会った人たちが助けてくれることにも気付か

新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

『第4章1 家のまわり学校のまわり』を活用した生活科の指導案例

<ul style="list-style-type: none">・落ちてくるものから自分の頭を守らないと。・近くにいる人に助けてもらう。	<p>せ、日頃のかかわりについても考えさせる。</p> <p>◎安全に避難するために注意しなければならない場所や安全に避難する方法について気付いている。(防災副読本, 発言) [気づき]</p>
---	---

(3) 板書計画

つうがくろで みつけたもの	であった ひと
<p>写真 写真 写真</p>	<p>写真 写真 写真</p>
<ul style="list-style-type: none">・おおきなどうろ ・くるま ・じてんしゃ・しんごうき ・ひょうしき ・ほどうきょう・ビル, マンション	<ul style="list-style-type: none">・まもらいだーの〇〇さん・こうばんの〇〇さん・みまもりたいの〇〇さん
	
<p>○たおれるものから はなれる</p> <p>○あたまを まもる</p> <p>○たすけを もとめる</p> <p>○あわてない</p>	

(4) 準備物等

- ・通学路探検で撮った写真
- ・新防災教育副読本（小学校1・2・3年）

生活科 第1学年 単元指導計画(防災)

単元名		単元の目標	予定時数	実施時数
がっこう だいすき		友達と一緒に校舎内や校庭を歩いたり、通学路の様子を調べたりして、学校の施設や、学校生活を支えている人々や自分たちの安全を守っている人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、安全な登下校ができる。	15	
単元の評価規準		ア 生活の関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	
内容のまとめりの評価規準		学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々に関心を持ち、楽しく学校生活を送るとともに、安全な登下校をしようとしている。 (内容(1))	学校の施設の利用、学校生活を支えている人々や友達との関わり、安全な登下校などについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。 (内容(1))	
次(時)	「小単元名」 ◎ねらい ○学習活動	指導上の留意点		評価 アイウ
				備考 【言語活動、ICT活用、地域の特性等】
1次 (1) (2) (3)	「みんなで がっこうを あるこう」 ◎校舎内や校庭を歩いて、学校の教室や施設に興味を持つことができる。 ○教師と共に、みんなで学校を見て回る。 ○学校を歩いてみて、発見したことや不思議に思ったことを話し合う。 ○学校の中を歩くときのルールやマナーを話し合う。	・「何に使う部屋かな」「何のためにあるのかな」など、何を見るのが参考になる視点を与えながら、探検させる。 ・「どのように使うのかな」「どんなことに気を付けるといいのかな」など、児童が実際に使うときに気を付けさせたいことに気付かせる。	○	【言語活動】 ・歩いている中で、進んで挨拶したり、適切に関わったりした姿が見られたときには、その場で認め、進んでコミュニケーションをとらせるようにする。 ・発見したことや不思議に思ったことを伝え合う活動を取り入れ、「場所」「もの」「人」について共有させる。
2次 (4) (5)	「がっこうを たんけんしよう」 ◎友達と一緒に、自分が興味を持った場所に探検に行き、そこにあるものやその役割について調べたり、働いている人や上級生などに話を聞いたりすることを通して、学校の施設の様子に気付くことができる。 ○友達と探検に行きたい場所を出し合い、探検に行くところを決める。 ○グループで学校探検をする。 ○探検を通して発見したことや気付いたことを伝え合う。	・「みんなで がっこうを あるこう」の活動を基に、もう一度行きたい場所について話し合い、探検への意欲化を図る。 ・「何を発見したいのか」など、対話を通して、探検の目的をはっきりさせるようにする。 ・「どんな場所があったか」「どんなものがあったか」「ものにはどんな意味があるのか」など児童の発見したことを整理しながら、まとめる。	○	
3次 (6) (7)	「がっこうの ひと なかよくなるよう」 ◎友達と一緒に、学校の人と繰り返し関わることを通して、学校生活を支えている人々のことが分かる。 ○前時の探検で自分たちが関わった人のことを思い出し、更に関わってみたい人を決める。 ○学校の人と話をしたり、質問をしたりする。 ○教室に戻って、見つけたことや教えてもらったこと、気付いたことを学習カードに記入し伝え合う。	・「がっこうを たんけんしよう」の中で、インタビューしてきた児童の活動を紹介し、学校の人と仲良くなるようとする意欲を高める。 ・インタビューの際、仕事の内容だけでなく、どんな思いで仕事をしているかということにも触れさせる。	○	【言語活動】 ・探検の中で適切に挨拶したり、インタビューしたりできるように事前に練習をさせる。 ・記録カードを基にした発表を通して、伝え合う活動をさせる。
4次 (8) (9)	「こうても たんけんしよう」 ◎校庭で、草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりして、動植物と触れ合う楽しさが分かり、校庭の施設の様子に気付くことができる。 ○校庭の春の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったり、施設を利用したりする。 ○校庭で見つけたことや気付いたことを、先生に伝えたり、友達と伝え合ったりする。	・休み時間に校庭で遊んだことや、校庭の動植物について話し合わせるなどして、校庭の動植物や施設に関心を持てるようにする。 ・活動の終了時刻や活動範囲など、校庭を探検するときの「約束」を決めて活動させる。	○	【ICT活用】 校庭で記録した動植物の写真を拡大して、提示する。
5次 (10) (11) (12)	「がっこうで みつけたことを はなそう」 ◎校舎内や校庭で見つけたことなどを伝え合うことを通して、先生や友達のことが分かり、安心して学校生活を送ることができる。 ○学校で見つけたことや気付いたことを、絵や簡単な文章で記録カードに書く。 ○記録カードを使って友達と見つけたことを伝え合う。	・これまでの活動をみんなで振り返り、発見したことなどを話し合う中で、自分が伝えたいことを明確にさせる。 ・教師が聞き取りをし、自然な形で児童同士の学びへ広げていくようにする。	○ ○	【言語活動】 記録カードを基に、自分が見つけた学校の様子を伝え合わせる。
6次 (13) (14) (15)	「みんなで つうがくろを あるこう」 ◎先生に引率されて通学路を歩きながら危険箇所を見つけたり、自分の地域の避難場所を確かめたりする活動とおして、自分たちの通学路の安全を守っている人々や施設に気付くことができるとともに、災害時に安全に避難する方法について考える。 ○学校の外を歩く際のルールやマナーを話し合う。 ○通学路で注意するところについて考える。 ○通学路をみんなで歩き、安全を守っている人々や施設を見つける。 ○通学路探検を振り返り、通学路の安全を守っている人々や施設のことを伝え合う。 ○災害時の危険箇所と安全な避難について考える。	・毎日の登下校時における通学路の様子について話し合い、どのようなルールやマナーがあるかを発表し、通学路の様子に関心を持てるようにする。 ・新防災教育副読本P26～27を活用する。 ・初めての校外活動となるので、道路の歩き方、横断歩道の渡り方など、安全指導を十分に行う。 ・教師が撮ってきた写真を提示し、場所を想起しやすいようにする。 ・地域性から特に注意を必要とする箇所は、教師から提示する。 ・注意を要する場所やものから身を守る方法について気付いたことを発表させる。 ・お互いの考えを共有させることで、防災の意識をはぐくむ。	○ ○	【ICT活用】 安全に関する設備や危険箇所の写真を提示する。 【言語活動】 資料や見つけたことを基に、気付いたことを伝え合わせる。

※ 下線部は 防災教育関連